

ESDに関するグローバル・アクション プログラム(GAP)

～国際動向と国内ステークホルダーへの期待～



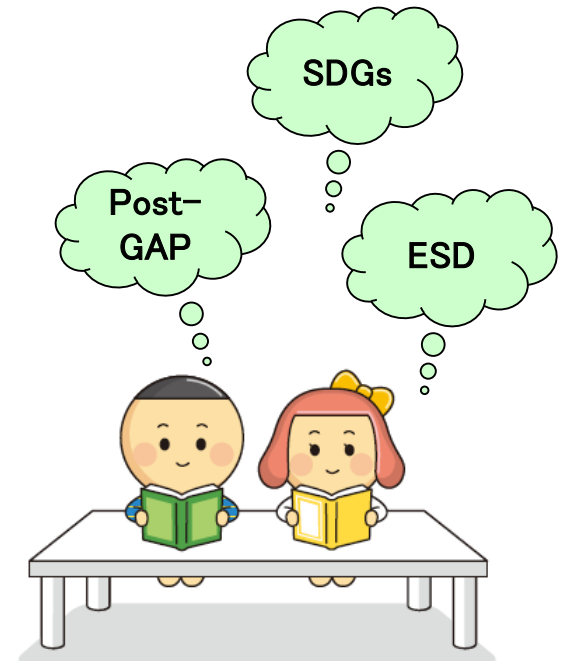
文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



日本ユネスコ国内委員会
Japanese National Commission for UNESCO

目次

- I ESDと国際的な動き
- II 第3回GAPキーパートナー会合
- III GAP後継枠組案のポイント
- IV 国内ステークホルダーへの期待



I ESDと国際的な動き

1. 「ESD(持続可能な開発のための教育)」とは？

ESD=Education for Sustainable Developmentの略。

持続可能な社会づくりの担い手を育むため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を身に付けるための教育です。

2. 「国連ESDの10年」(UNDESD): 2005年～2014年

(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

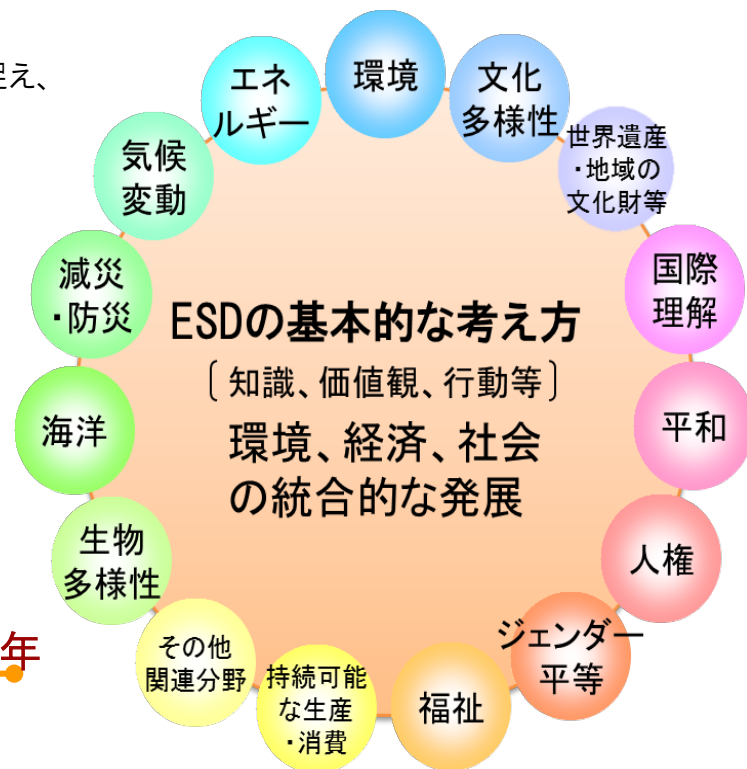
- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議(第57回総会)
 - ・ 2005～2014年の10年
 - ・ ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
- 2009年 ESD世界会議(ボン)
 - ・ ボン宣言の採択
- 2014年 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議(愛知県・名古屋市／岡山市)
 - ・ あいち・なごや宣言の採択
 - ・ ユネスコ／日本ESD賞の創設

3. グローバル・アクション・プログラム(GAP): 2015年～2019年

- 2013年 第37回ユネスコ総会にて採択
- 2014年 第69回国連総会にて採択
- 2015年～2019年 グローバル・アクション・プログラム(GAP)に基づいたESDの推進

4. ポスト・グローバル・アクション・プログラム(post-GAP)に向けて

- 2018年 第204回ユネスコ執行委員会にて「2019年以降のESD(持続可能な開発のための教育)」にかかる決議を提案
ESDの将来に関する加盟国協議(バンコク)
 - ・ post-GAP枠組みの草案を議論
- 2019年 第206回ユネスコ執行委員会にてpost-GAP枠組みの草案提出(予定)
第40回ユネスコ総会にて採択(予定)
第74回国連総会にて採択(予定)



2018年4月、サンホセ(コスタリカ)
GAPキーパートナー会合開催



Ⅱ 第3回GAPキーパートナー会合

日程・目的・参加者

- 2018年4月25日(水)～27日(金)サンホセ(コスタリカ)で開催。
- 会議の主な目的は、GAP後継枠組に係る意見交換。
- GAP優先5分野「政策的支援」「機関包括的アプローチ」「教育者」「ユース」「地域コミュニティ」の各キーパートナーグループより約80名参加。



【出典】UNESCO

主な内容

- ユネスコ本部作成のGAP後継枠組案(ゼロドラフト)の初公開。
- ゼロドラフト作成後、初の各キーパートナーグループからの参加者との協議・見解共有。
- ESDに関連する場所へサイトビジットを実施。



【出典】UNESCO

Ⅲ GAP後継枠組案のポイント

①GAPの理念の継続

- GAPでは、あらゆる分野におけるESD活動の創成・活動を通じた、持続可能な開発のための教育の強化・再構築を目的としている。
- 2020年以降(GAP後継枠組)もこの理念は引き継がれる。

②SDGs達成に貢献するESD

- GAP後継枠組(2020年～2030年)では、教育を通じたSDGsの達成を目標とする。
- 今後はESDコミュニティだけでなく、SDGsステークホルダーとの連携も重要。



Ⅲ GAP後継枠組案のポイント

③包括的ネットワーク・横断的活動

- SDGsの達成のためには、様々なステークホルダーで構成される一つの包括的ネットワークが必要。
- 各ステークホルダーは、従来の5つのGAP優先分野のパートナーネットワーク(PN)を越えた、横断的活動が求められる。

【従来】
各GAP優先分野
PNでの活動

政策的支援
(PN1)

機関包括的
アプローチ
(PN2)

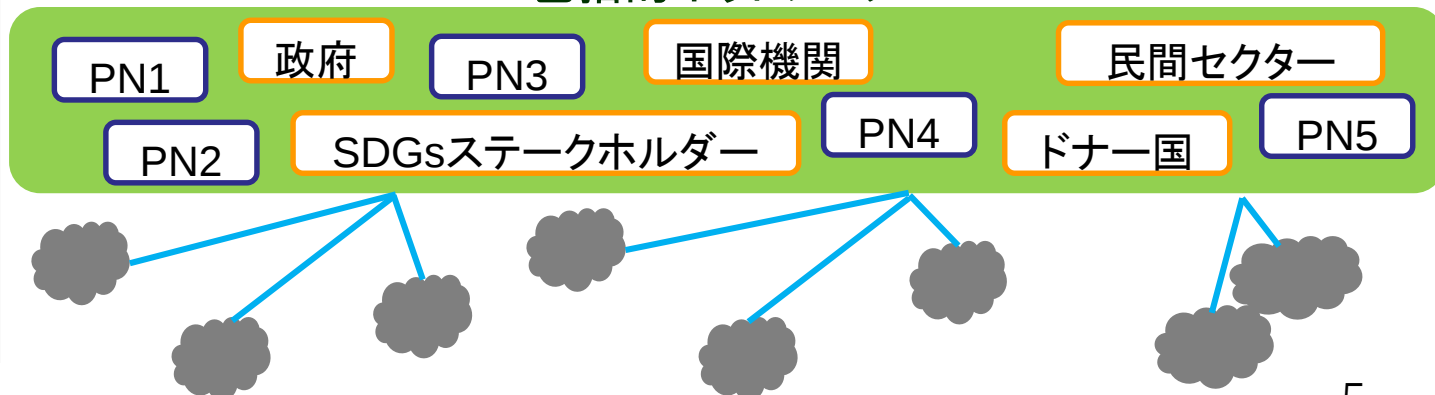
教育者
(PN3)

ユース
(PN4)

ローカル
コミュニティ
(PN5)

【今後】
・様々なステークホルダーで構成される
包括的ネットワーク
・PNを越えた横断的活動

包括的ネットワーク



SDGs達成に係る様々な問題を分野横断的に対応



Ⅲ GAP後継枠組案のポイント

④求められる取組

- 教育を通じたSDGs達成のための国家規模のイニシアチブへの支援。
- 現行のESD活動の規模拡大への支援。
- 広報・アドボカシー促進。
- エビデンスベースのESD活動の実施。(モニタリング)

【参考】今後の予定

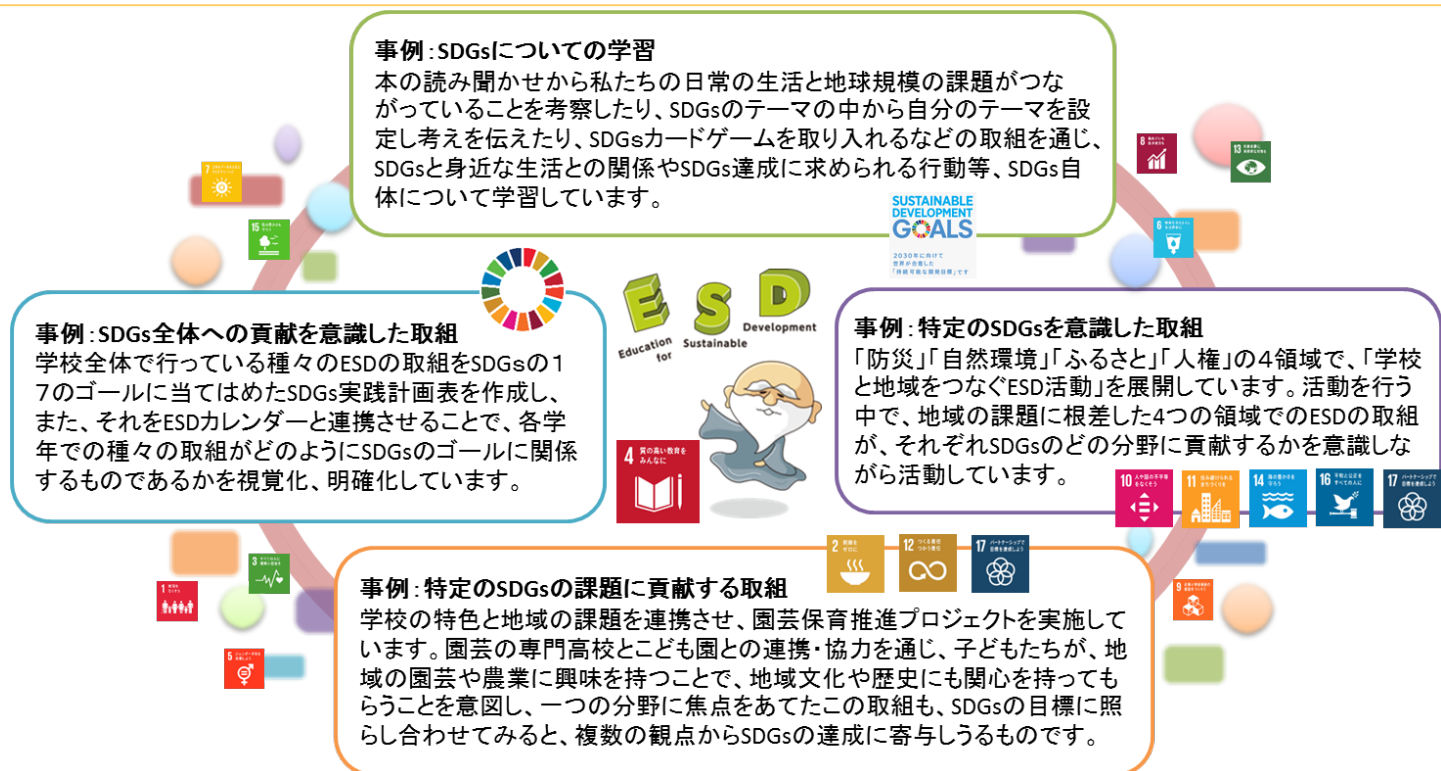
- 2018年9月 オンライン協議
- 2018年末 GAP後継枠組案まとめ終了。
- 2019年春 第206回執行委員会
(ユネスコ本部よりGAP後継枠組案提出。)
- 第40回ユネスコ総会にて採択(予定)
- 第74回国連総会にて採択(予定)



IV 国内ステークホルダーへの期待

- SDGsが掲げる17の目標(課題)をESDの取組に取り入れ、ESDの推進に活用
- ESDを通じた、ESDコミュニティとSDGsステークホルダーとの連携及び分野横断的活動の実施

- 具体的なアプローチは、その学校・地域の課題やESDの取組方により様々
- SDGsを見据えつつ、学校や地域で足元の課題解決を大事に、ESDを推進することが重要



Ⅳ 国内ステークホルダーへの期待

【参考】「日本ユネスコ国内委員会教育小委員会からのメッセージ」

我が国は、「国連ESDの10年」の提唱国として、ユネスコスクールを推進拠点と位置付け、これまでESDの推進に積極的に取り組んできました。

SDGsが採択された今、ESDを更に進めていく上で参考となるような考えをまとめておりますので、ご活用いただけますと幸いです。

<参考>

「日本ユネスコ国内委員会教育小委員会からのメッセージ」

文部科学省ホームページ: <http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/about/message.html>

今日よりいいアースへの学び
持続可能な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて
～学校等でESDを実践されている皆様へ
日本ユネスコ国内委員会教育小委員会からのメッセージ～

日本は国連ESDの10年の旗幟国として、ユネスコスクールを推進拠点と位置付け、これまでESDの推進に積極的に取り組んできました。SDGsが採択され、ユネスコスクールが1000校を超え、新学習指導要領が公示された今、ESDを更に進めていく上で、参考となるような考え方をまとめました。
【メッセージ掲載webページ: <http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/>】

持続可能な開発とは…
国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」が1987年に公表した報告書にある「将来の世代の要求を満たしつつ、現在の世代の要求も満足させるような開発」という定義が知られています。

持続可能な開発のための教育（ESD）とは…
持続可能な社会の担い手を育む教育です。世界にある様々な現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

1. 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献するESD

持続可能な開発目標（SDGs）とは
発展途上国のみならず、先進国自身も取り組む2016年から2030年までの国際的な目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

教育/ESDとSDGs
教育はSDGsの目標4に位置付けられており、ESDは目標4の中のターゲット4.7に記載されています。しかし、教育については、「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「全てのSDGsが教育に期待している」とも言われています。特に、ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17全ての目標の達成に貢献するものです。ですから、ESDをより一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接につながっています。また、SDGsを、ESDで目指す目標が国際的に整理されたものとして捉えることもできます。

SDGsを取り入れたESDの推進
ESDを推進すること自体がSDGsの達成に貢献することを踏まえ、SDGsが掲げる17の目標（課題）を、ESDの取組に取り入れ、今後のESDの推進に役立てていただきたいと思います。例えば、ESDの取組をSDGsの観点から見直すことを通じ、自分自身のESDの活動に新たな意義や価値付けを行うことや、ESDの目標を明確化することが可能です。具体的なアプローチは、その学校・地域の課題やESDの取組方により異なりますが、SDGsを見据えつつ、学校や地域で足元の課題解決を大事に、ESDを推進していただくことが重要です。





御清聴ありがとうございました。



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

今日よりいいアースへの学び

持続可能な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて
～学校等でESDを実践されている皆様へ
日本ユネスコ国内委員会教育小委員会からのメッセージ～

日本は国連ESDの10年の提唱国として、ユネスコスクールを推進拠点と位置付け、これまでESDの推進に積極的に取り組んできました。SDGsが採択され、ユネスコスクールが1000校を超え、新学習指導要領が公示された今、ESDを更に進めていく上で、参考となるような考え方をまとめました。
【メッセージ掲載webページ：<http://www.esd-jpnatcom.mext.go.jp/>】



持続可能な開発とは...

国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」が1987年に公表した報告書にある「将来の世代の要求を満たしつつ、現在の世代の要求も満足させるような開発」という定義が知られています。

持続可能な開発のための教育(ESD)とは...

持続可能な社会の担い手を育む教育です。世界にある様々な現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

1. 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献するESD

持続可能な開発目標(SDGs)とは

発展途上国のみならず、先進国自身も取り組む2016年から2030年までの国際的な目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

現状理解

教育/ESDとSDGs

教育はSDGsの目標4に位置付けられており、ESDは目標4の中のターゲット4.7に記載されています。しかし、教育については、「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「全てのSDGsが教育に期待」している、とも言われています。特に、ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17全ての目標の達成に貢献するものです。ですから、**ESDをより一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接につながっています。**また、SDGsを、ESDで目指す目標が国際的に整理されたものとして捉えることもできます。



次の一歩

SDGsを取り入れたESDの推進

ESDを推進すること自体がSDGsの達成に貢献することを踏まえ、**SDGsが掲げる17の目標(課題)を、ESDの取組に取り入れ、今後のESDの推進に役立てていただきたい**と考えます。例えば、ESDの取組をSDGsの観点から見直すことを通じ、自分自身のESDの活動に新たな意義や価値付けを行うことや、ESDの目標を明確化することが可能です。具体的なアプローチは、その学校・地域の課題やESDの取組方により様々ですが、**SDGsを見据えつつ、学校や地域で足元の課題解決を大事に、ESDを推進していただくことが重要です。**



2. これからのユネスコスクール

ESDの推進拠点としてのユネスコスクール



ユネスコ憲章に示された、平和や相互理解の促進といったユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校をユネスコ本部が認定するものです。我が国では、国連ESDの10年の開始に当たりユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け加盟校増加に取り組んだ結果、2005年には19校だったユネスコスクールは現在1000校を超えました。

現状理解

地域や他のユネスコ活動との連携による好事例の蓄積

ユネスコスクール間のネットワーク、地域との協働、地域課題に根付いた取組に加えて、世界遺産、エコパーク、ジオパークといった他のユネスコ活動と連携し、その理念や活動を、ESDの活動に取り入れている例が増えてきました。このような連携により、ユネスコがESDの実践において重要な観点として掲げる「変容（人、社会の価値観、考え方の変容）、統合（環境、社会、経済の統合）、イノベーション」を生み出すような実践が報告されています。

次の一歩

主体的なネットワークへの参加、ネットワークを通じた好事例と知見の共有

ユネスコスクールになるということは、ユネスコスクールネットワークという**世界的な学校間ネットワークに加盟し活動する**ということです。その機能を最大限に活用し、各学校が**主体的に**国内外のユネスコスクールと交流することが大切です。そのような交流を通じ、これまで蓄積されてきた**好事例を共有**すると同時に、ESDの次代の担い手を養成する観点から**教員の皆様の知見の共有**も行っていたり、学校間だけでなく、地域の様々な関係者の皆様とも協力しながら、ESDにおいても先導的な役割を果たしていただきたいと思います。

3. 教育の質の向上へのESDの貢献

教育課程、学習スタイルの変革への貢献

ESDの実践は教育課程や学習スタイルの変革にも貢献するものです。例えば、個々のテーマに基づいて別々に実施していた学習をESDの視点で統合的に再構築することにより、より地域の課題に結びついた学際的で実践的な学びに発展させることもできます。また、ESDの導入により、体験、探究、そして問題解決により重点を置いた学習スタイルへの変容が見られ、その結果、より学習者主体の参加型の学習を可能にしています。



新学習指導要領等における記載

新学習指導要領等の策定過程において、2016年12月に発表された中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」には、「持続可能な開発のための教育（ESD）は次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念である」とあります。答申に基づき策定され、2017年3月に公示された小・中学校学習指導要領においては、全体の内容に係る前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科においても、関連する内容が盛り込まれています。

学習指導要領の改訂の方向性とESD

本小委員会では、今回の改訂で、**持続可能な社会の担い手を創る教育であるESDが、新学習指導要領全体において基盤となる理念として組み込まれた**と理解しています。また、ESDの実践で取り組まれてきた学習内容や方法は、新学習指導要領等示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善という改訂の方向性にも資するものであり、地域や外部機関、世界と連携して学際的かつ体系的に構築するESDの編成プロセスは、「カリキュラム・マネジメント」の具体的な実践にもつながります。